

東アジア平和運動の課題と展望： アジア青年平和学校を中心に¹

黄 南 徳

1. 序論

1) 平和とは何か

キリスト教の聖典であるヘブライ語聖書（旧約聖書）で平和を意味する「シャローム（Shalom）」は、「完全性」、「総体性」、「完全」、「安全」などの意味を持つ。ギリシャ語聖書（新約聖書）では平和を「エイレネ（eirene）」で表現し、「繁栄」、「一つとなること」、「静寂」、「安息」の意味を持つ。このような意味を持つ「シャローム」と「エイレネ」は、神と人間、人間と人間、人間と自然の間の正しい関係が維持されるときに成される関係的な概念であり、その必要条件でもある。一方、一般的な概念でも平和を定義することができる。ヨハン・ガルトゥング（Johan Galtung）²は平和を消極的平和と積極的平和に区分し、消極的平和はテロ、戦争などの物理的暴力がない状態を言い、積極的平和は物理的暴力の原因となる貧困、飢餓、抑圧、差別による暴力がない状態とした。この二つの次元の平和は相互に関連しているが、ガルトゥングは人類共同体の繁栄と発展のために、単に戦争をしないという消極的な次元の平和を超え、調和と協力を基にした積極的な平和を強調している。

1 本稿は、2024年8月12日に韓国の鉄原で行われた第3回アジア青年平和学校で発表された原稿を修正及び加筆したものである。

2 オスロ出身の社会学者（1930.10～2024.2）。ノルウェー国際平和研究所創設者であり、オスロ大学で平和と紛争研究の教授を務め、1964年に世界平和学会を設立。

2) 平和を脅かす戦争

平和を最も脅かすのは戦争である。人類の歴史における二度にわたる世界大戦は、数多くの死傷者を出し、人間の罪性を赤裸々に明らかにした。特に原爆使用の罪悪は何よりも大きい。

第二次世界大戦末期、1945年8月6日に広島と8月9日に長崎に原爆が投下され、広島では約20万人、長崎では約8万人の死者が発生した。このうち韓国人は広島で約3万5千人、長崎で約1万5千人であった。生存者とその子孫は、現在も被爆の影響で身体的、精神的な苦痛を抱えているのが現実である。しかし今日、強大国が開発及び保有する核兵器は、全世界を20回以上破壊できるほど増加した。核戦争が発生すれば、人類は全滅の危機に陥るだろう。

朝鮮半島では1950年に戦争が勃発し、休戦後、これまで南北は分断国家として残っている³。戦争中に引き離された離散家族は、70年以上経った今も別々に暮らしている⁴。以下は、20世紀から発生した主な戦争の死亡者数である。

①第1次世界大戦死亡者：約1,700万人

(民間人：約700万人、軍人：約1,000万人)

②第2次世界大戦死亡者：約5,000～7,000万人

(民間人：3,000～4,500万人、軍人：2,000～2,500万人、その他病氣と飢饉による民間人死亡者：1,300～2,000万人)

③ベトナム戦争死亡者：200～380万人（そのうち米軍死亡者は5万8,000人）

④朝鮮戦争死亡者：約156万人

(韓国人：142万人、国連軍：3万人、中国軍：11万人)

⑤イラク戦争死亡者：約16万人

(2011年12月末現在、民間人：11万人、イラク軍、米軍と連合軍、記者など5万人)

3 朝鮮戦争は1950年6月25日に始まり、1953年7月27日に休戦した。

4 離散家族情報統合システムに登録された離散家族数は、2019年11月現在、合計133,365人である。統一公式ブログ、<https://m.blog.naver.com/gounikorea/221981766256> (2024年7月7日)

⑥アフガニスタン戦争死亡者：約14万3,000人

(2011年12月末現在, 民間人：約14万人, 米軍と NATO 軍：2,765人)

⑦世界内戦死亡者 (1955～2003年)：約160万人⁵

戦争は今もなお続いている。

2022年2月24日に始まったロシアとウクライナの戦争はまだ多くの被害者を生み出している。

2022年11月にすでにウクライナの民間人死亡者の数が一万人を超えたと国連人権理事会 (United Nations Human Rights Council, UNHCR) は発表し⁶, 米国中央情報局 (CIA) が2023年末に米国議会に提出した非公開報告書によると, 2023年にロシア軍人の約31万5,000人が死亡したという⁷。そしてロイターはウクライナのある市民団体の言葉を引用し, 2023年に約3万人のウクライナ軍人が戦死したと報じた⁸。

中東地域はどうだろうか。1948年, イスラエルがパレスチナに国家を設立して以来, 四度の中東戦争が起こり⁹, 現在までイスラエルのパレスチナへの侵

5 チョン・ジュジン, 世界の平和, 私の平和 (ソウル:大韓基督教書会, 2012), 67-68頁。

6 UN, <https://ukraine.un.org/en/253322-civilian-deaths-ukraine-war-top-10000-un-says> (2023年11月21日)

7 CNN, <https://edition.cnn.com/2023/12/12/politics/russia-troop-losses-us-intelligence-assessment/index.html> (2023年12月13日)

8 Reuters, <https://www.reuters.com/world/europe/ukrainian-group-says-more-than-30000-troops-have-died-russias-invasion-2023-11-15/> (2023年11月16日)

9 第一次中東戦争 (1948年5月15日): イスラエルが建国 (1948年5月14日) を宣言すると, 翌日, 2万人のアラブ軍 (エジプト, シリア, イラク, ヨルダン, レバノン) とイスラエル軍との間で戦争が勃発した。; 第二次中東戦争 (1956年10月): エジプトのガマル・アブドゥル・ナーセル大統領がスエズ運河の国有化を宣言すると, イスラエル, イギリス, フランスが共にエジプトを攻撃した。しかし, 国際社会の世論の悪化により撤退。; 第三次中東戦争 (1967年6月): イスラエルがパレスチナのガザ地区と西岸地区 (ヨルダン川西岸), 東エルサレム, エジプト領シナイ半島ゴラン高原を奇襲攻撃して占領した。; 第四次中東戦争 (1973年10月): エジプト・シリア連合軍がイスラエルを奇襲攻撃したが, アメリカの助けによりイスラエルが勝利した。その後, イスラム産油国が石油を武器化することで第一次オイルショックが起こった。キム・ジェミョン, 『涙の地, パレスチナ』 (ソウル: 未知ブックス, 2022)

略は続いている。これに対抗して2023年10月7日にハマスがイスラエルを奇襲攻撃し、その年の10月27日にイスラエルがガザ地区に地上軍を投入して現在の状況に至っている。

2. 本論

1) なぜ反戦運動なのか

私たちが住んでいる地球村は、先端科学技術の発達により非常に狭くなった。時空的な境界がなくなり、いつでもどこでもコミュニケーションができるようになった。このような変化は、地理的に遠く離れた場所で起こることもお互いに影響を及ぼし、自分と無関係な概念はもはや存在しないということである。気候変動による地球温暖化も、ある一つの地域の問題ではなく、全地球共同体の問題となっている。例えば、「ニューヨークのアパートで脇の下にデオドラントスプレーをかけるとき、もし CFCs（フロン）を含むエアゾールスプレーを使用すれば、数年後、チリのプンタ・アレーナスに住む人々の皮膚がん死に寄与する可能性がある。車を運転することで排出される二酸化炭素は、バングラデシュで致命的な洪水につながる原因の一部になる可能性がある」ということである¹⁰。戦争も同様である。地球の反対側で起こる戦争であっても、その戦争は私たちの日常生活と未来に影響を与える。ロシア・ウクライナの戦争は朝鮮半島の国際外交的、政治軍事的政策決定と方向性に影響を与えており、パレスチナの平和の問題は中東全体だけでなく、東アジア地域の平和にも直結している。したがって、私たちはあらゆる形態の戦争に反対しなければならない。戦争は私たちの安全と幸福、さらには人類共同体の共存と平和を脅かす悪の勢力だからである。戦争を止め、戦争のない平和な世界を作るために反戦運動をしなければならない。

10 Peter Singer, *One World* (New Haven & London: Yale University Press, 2004), 19-20.

2) 平和、誰が実現させるのか

平和は国家が実現させることはできない。特に、帝国主義が力と権力によって実現しようとする平和は、民の生命と主権にはむしろ反対する結果をもたらす。歴史がそれを物語っている。例えば、第一次世界大戦中、イギリスは中東地域での覇権掌握のために、フセイン・マクマホン協定 (1915)¹¹、サイクス・ピコ協定 (1916)¹²、バルフォア宣言 (1917)¹³ という三つの密約を結ぶ。これが今日のパレスチナの根本的な問題の出発点となった。イギリスのこのような政治的権謀術数は、日露戦争が終わりつつあった1905年7月29日、日本とアメリカの間で締結された桂・タフト (Katsura-Taft) 協定¹⁴を思い起こさせる。サイクス・ピコ協定が中東地域を支配するためのイギリスとフランスの帝国主義密約なら、桂・タフト協定はアジア地域を支配するためのアメリカと日本の帝国主義密約である。このように、帝国主義は弱小国の民の主権と生命とは全く関係ない帝国の利益だけを追求している。

朝鮮半島の分断は韓国民の願いだっただろうか。第二次世界大戦後のアメリカとロシア (当時ソ連) の朝鮮半島分割占領の帝国主義政策によるものだった。戦争の被害者である朝鮮半島の民にとっては、戦争は想像もすることができず、分断も望んでいなかった。現在も民は、強制的に分断された分断体制の

11 エジプト駐在英国高等弁務官ヘンリー・マクマホンは、サウジアラビア・メッカのカリフだったフセイン・イブン・アリーと1915年7月から秘密裏に手紙のやり取りをした。この過程でマクマホンは「アラブ人がイギリスを助けて戦うなら、戦争が終わった後、アラブ人がオスマン帝国の支配から抜け出し、独立国家を建てるのを助ける」と約束した。金在明、『涙の地、パレスチナ』(ソウル：未知ブックス、2022)

12 イギリスとフランスは、戦争後に土地をめぐり紛争せず、戦争中にあらかじめ土地を分けようという協定を結ぶ。金在明、『涙の地、パレスチナ』(ソウル：未知ブックス、2022)

13 英国外務大臣アーサー・ジェイムズ・バルフォア (Arthur James Balfour) は、シオニズム運動を財政的に支援していたヨーロッパ金融界のロスチャイルド (Rothschild) に「イギリス政府はパレスチナにユダヤ人の民族的故郷を建設することを肯定的に考え、この目的を達成するために最善を尽くす」という手紙を送った。金在明、『涙の地、パレスチナ』(ソウル：未知ブックス、2022)

14 日本の桂首相とアメリカ陸軍長官タフトが東京で会い、アメリカは日本の韓国 (朝鮮) に対する支配権を認め、日本はアメリカのフィリピンに対する支配権を認めるという密約である。

下で民族の統一を望んでいる。

平和はもはや国家や政府に任せることはできない。国家内の支配エリートにも期待はできない。平和は歴史の主体である民だけが成し遂げることができるゆえに、これからは民が中心となる平和運動を展開しなければならない。戦争の悪影響が全地球的に及ぶように、平和運動も全地球的に展開しなければならない。平和のウイルスを広めなければならない。国境なき民の平和運動が私たちの課題である。民が主体となった国境を越えた民の平和運動だけが、帝国主義の戦争を止め、人類共同体の繁栄と幸福を実現できる真の力であるからだ。

3) 民としての青年学生：アジア青年平和学校の歴史

2019年5月に「東アジア平和センター・福岡（以下、平和センターと呼ぶ）」が設立され、韓国と日本を中心とした平和運動が始まった。平和センターは日本軍慰安婦問題と強制徴用労働問題を含む様々なテーマを扱った資料集を発行した。また、原爆についての公開講演会を開催し、1日プログラムで平和紀行として市民と学生が共に強制徴用労働者の現場を訪問した。そして、ロシアとウクライナ戦争に関する講演会も開催した。その中で、「アジア青年平和学校（以下、平和学校と呼ぶ）」は平和センターの主な働きとして、第一回を2019年8月12日から16日の日程で沖縄にて開催した。テーマは「沖縄での命のための正義、Peace for Life in Okinawa」で、韓国人3名、日本人3名、中国人1名が参加した。中国人参加者は、当時九州大学に留学中の学生だった。

沖縄は美しい観光地と思われがちだが、第二次世界大戦末期に日本本土によって戦場として利用され、多くの先住民が犠牲になった場所である。第二次世界大戦後、米軍基地が建設され、現在も辺野古で建設が続けられている。

沖縄での平和学校は講義と現場見学で構成され、午前は聖書研究と沖縄の歴史と現実について講義を受け、午後は平和公園、平和博物館、そして米軍基地が建設されている辺野古に行った。参加者数は少なかったが、沖縄で米軍基地建設に反対して第一回を開催したことは非常に有意義なことだと評価される。

その後、参加者を中心に第二回を準備するためにオンラインで準備会も行っ

だが、新型コロナウイルス感染拡大のため平和学校は三年間中断せざるを得なかった。しかし、新型コロナウイルスの状況がおさまった後、第二回を2023年8月15日から18日まで開催した。この時から平和学校の名称を「青年平和学校」から「アジア青年平和学校」に変え、韓国と日本を越えて他のアジア諸国まで本格的に拡大しようとした。

済州カンジョン（江汀）村で開催された第二回は「平和、共に Peace Together」というテーマで「開拓者たち」と共催し、韓国人8人、日本人9人、香港人1人が参加した。香港から参加した学生は、2023年に西南学院大学に語学研修に来た学生だった。

済州島の状況は沖縄と似ているが、そこには海軍軍事基地がある。多くの済州島民と平和活動家が建設に反対したが、2016年2月に完成した。済州海軍基地は建設過程から環境を破壊するだけでなく、現在も北東アジアの平和を脅かしている。この海軍基地をアメリカが軍事基地化しようと、米軍の海軍艦艇だけでなく、原子力潜水艦まで停泊させた。このように沖縄と済州島は、北東アジアの平和を脅かすアメリカの軍事基地化に利用されている。

第二回目も講義と現場見学で構成され、午前は済州島のカンジョン村で活動する「開拓者たち」の活動状況を中心に、カンジョン村での平和運動の現実と未来について聞き、午後は海軍基地前で人間連帯運動と基地反対運動に参加した。そして、済州4.3平和公園を訪問し、済州4.3事件の民間人虐殺の歴史¹⁵について知り、日本統治時代に済州を中国侵略の前進基地として活用するために作られたアルトゥール飛行場に行き、日帝の侵略蛮行についても学んだ。特に第二回は、沖縄から来た学生と平和運動家たちが韓国の学生と済州島の平和運動家と出会うことで、これからの済州島と沖縄が連帯できる足がかりにもなった。

そして今年、第三回を8月12日から15日までの日程で韓国の江原道にある鉄原で開催した。テーマは「非武装地帯で歌う平和の歌、Song of Peace from the Demilitarized Zone」であり、韓国人10人、日本人10人が参加した。

15 済州4.3事件については、済州4.3平和財団を通じて詳しく知ることができる。
済州4.3平和財団, https://jeju43peace.or.kr/kor/sub01_01_01.do (2024年7月12日)

短い日程だが、鉄原の「国境線平和学校」で『コリアの分断の歴史と今日の現実』についての講義を聞きながら、国境線地域の現場を訪問する。韓国と日本の青年学生が生命平和の道を共に歩み、平和に向けた共同の課題を探そうとする。

3. 結論：展望と提案

「平和学校」は、韓国と日本を越えてアジアにさらに拡大すべき課題を抱えている。そこで私は3月に台湾のキリスト教大学である長栄大学を訪問し、神学部教授たちに会い、平和学校を紹介し、アジア平和運動のビジョンを共に共有した。今回は台湾からの参加者はいないが、台湾との関係を継続させ、来年は第四回を台湾で開催しようと考えている。しかし、都合が悪い場合は沖縄で行う予定である。

平和学校は、韓国と日本、そして中国、台湾をネットワークとした学びと実践の場として発展していく必要がある。それを主導する主体は青年学生たちである。これまでは平和センターの理事会が中心だったが、今後は青年学生が運営する必要がある。そのため、第四回からは参加者がプログラムを計画し、進行し、評価するすべてのことを担当すべきだと思っている。そのために、これまで参加した青年学生が主軸となる「東アジア平和青年連帯（仮称）」の創立を提案する。「東アジア平和青年連帯（仮称）」が平和学校の3年間の経験をもとに、アジア平和運動の新たな基礎を築くことを期待する。「東アジア平和青年連帯（仮称）」は、平和学校の運営だけでなく、日常的にオンライン会議やSNSを通じて持続的な平和運動を展開することができるだろう。

「東アジア平和青年連帯（仮称）」の創立準備会を2025年1～2月中に韓国（済州または鉄原）または日本（福岡または沖縄）で開催することと、この準備委員会が第四回平和学校を準備し、第四回平和学校のプログラム中に創立することを提案する。

「平和センター」と「開拓者たち」、「国境線平和学校」、「沖縄エキュメニカル平和センター」は「東アジア平和青年連帯（仮称）」の活動を支援する団体

として後援と諮問の役割を担い、国際連帯の幅を広げるために世界平和運動団体や学校を紹介することができる。

青年学生が民である。民が主体となる国境なき平和運動を通じて、今日も私たちは平和を歌いながら実践していく。

「非武装地帯で歌う平和の歌！」。

共に歌おう。

付録¹

付録を通じて東アジア平和センター・福岡の紹介とともに、平和センターと協力関係にある済州島の「開拓者たち」と鉄原の「国境線平和学校」を紹介する。

1. 東アジア平和センター・福岡

東アジア平和センター・福岡（以下、平和センター）は、大韓イエス教長老会（統合）が日本基督教会にエキュメニカル宣教師として派遣した黄南徳（ファン・ナムドク）牧師の提案をもとに、日本の教会と韓国の教会が協力して2019年5月に設立された平和運動団体である。これまで平和センターは、多様な公開講演会を開催し、市民運動の活性化に取り組んできた。例えば、日本と韓国の平和な未来を切り開くための歴史正義に関する講演会、反核平和運動の一環として日韓両国の原爆被害者問題を広く知らせる講演会、ロシア・ウクライナ戦争反対を目的とした講演会などが行われた。また、日本軍「慰安婦」問題や強制徴用工問題を扱った資料集を制作・配布した。特に、2019年に沖縄で実施した第1回アジア青年平和学校を皮切りに、2023年には韓国の済州島で第2回を、2024年には韓国の鉄原で第3回を開催し、日本と韓国の青年が国境を越えて集い、平和運動のための連帯と交流の場を作り出した。平和学校は、日本と韓国に留まらず、アジアの他の国々へと拡大し、戦争のない平和な世界を目指すアジア青年学生運動として根付かせることを目指している。

（1）目的²

『わたしたちは、みなと共に生きる平和な世界の到来を望んでいる。この新しい共生の時代は民衆の力を通じてのみ達成することができる。日本と韓国の教会は、平和へと向かう潮流の中で、東アジアの平和のために共に働くことが求

1 付録では脚注番号が新しく始まる。

2 東アジア平和センター・福岡, <https://sites.google.com/view/peacefukuokakr/>（2025年1月5日）

められている。「東アジア平和センター・福岡」はこの共生の時代を求めて、特に次代を担う青年たちと平和を夢見つつ行動を起こす。わたしたちは排他的な民族主義と文化的優越主義、またすべての社会的差別と排除を乗り越えて、すべての人々が調和して生きる、神の愛と正義に満ちた神の国の実現に向けて歩みだす。「東アジア平和センター・福岡」は、いのちを愛するこの地上のすべての人々と共に、国境なき正義・平和運動を実践しつつ、新しい地平を開きたいと願う。』

(2) 実践計画

- ①青年平和学校開校 正義と平和（反戦，反核，人権，移民問題，ジェンダー，地球生態系など）を主題にして平和教育を実施（学びと現地訪問）
- ②韓国，日本の各教会牧師・教会員の相互訪問
- ③韓国，日本の神学生の共同セミナー（神学講座）
- ④韓国，日本の都市，農漁村の教会牧会者教育訓練プログラム開発（移民相談センター，社会福祉施設訪問等）
- ⑤国際連帯の活動

(3) 国際連帯

- ①アジア・太平洋 YMCA 連盟（韓国）
- ②韓国 YMCA 全国連盟（韓国）
- ③日韓反核平和連帯（日本/韓国）
- ④開拓者たち（韓国）
- ⑤国境線平和学校（韓国）

2. 開拓者たち³

「開拓者たち」は，宋康鎬（ソン・ガンホ）博士が青年たちと共にルワンダ，インドネシア，イラク，アフガニスタン，ボスニアなどの紛争地域を訪れ，

3 開拓者たち，http://wcfgw.nayana.kr/xe/sub_storyboard_freeboard/41078（2025年1月5日）

キリスト教の真の役割について悩み始めたことから始まった。彼がドイツ留学を終えて韓国に帰国して1999年6月に楊平（ヤンピョン）で平和運動のための共同体を設立したことが、「開拓者たち」の本格的な出発点となった。その後、紛争地域である東ティモールやアフガニスタンでも一時的に共同体を設立したが、現在ではインドネシアのアチェ地域に現地住民による平和共同体が設立されている。以下は、「開拓者たち」のホームページに記載されているプログラムを要約したものである。

（１）主な活動

①祈り

平和のための活動の中で、最初に行うことは祈りです。1993年に始まった「世界のための祈り」を現在まで毎週続けている。

②平和キャンプと平和学校

2000年から主に夏休みを利用して、世界中の若者たちを紛争地域に招き、平和キャンプを開催。また、そのキャンプで平和学校を開き、子どもたちに平和を教えている。

③平和サービス

「開拓者たち」は、若者たちに兵役の代わりに平和サービスをするよう勧めている。男性だけでなく女性にも、最低1～2年間、紛争地域で苦しんでいる人々のもとを訪れ、その苦難に共に参加することを奨励しています。

④メッセンジャープログラム

難民キャンプで暮らす離散家族のビデオメッセージを撮影し、それを国境を越えて暮らす家族に届ける。また、故郷に残る家族の映像を返信として撮影し、再び難民キャンプに届ける役割を東ティモールで実施した。

⑤離散家族との再会

東ティモールとインドネシア政府の許可を得て、限られた人数ではあるが、両国間の国境線にある非武装地帯で難民が直接会える場を設けた。

⑥帰郷支援

インドネシアや東ティモールのいくつかの団体と協力し、難民キャンプの人々の帰郷を支援した。

⑦緊急救援

紛争や災害地域の人々を支援する緊急救援活動を行った。

⑧海軍基地反対運動

済州島の江汀（カンジョン）に建設された海軍基地に対する反対運動を継続している。

⑨島々の連帯

韓国の済州島，日本の沖縄，台湾を平和の島とするため，この三つの島に囲まれた東シナ海を非武装平和の海にしようという運動を行っている。

3. 国境線平和学校⁴

国境線平和学校は，イギリスで平和学（Ph.D.）を学んだ鄭址錫（チョン・ジソク）博士が2011年9月にその設立を目指して家族とともに鉄原に移住し，同年11月からソイ山を登る平和祈祷巡礼運動を開始したことから始まった。2012年には平和学校設立準備の一環として予備クラスを運営し，2013年3月1日に本格的に学校を開校して，最初の11人の学生がピースメーカー教育を受けた。それ以来，国境線平和学校は多様な平和教育を実施してきた。例えば，鉄原の子どもや青少年を対象とした DMZ 平和巡礼，国際平和会議，平和マラソン，アメリカ合同メソジスト教会の Global Mission Fellowship プログラムの一環として外国人学生のための平和教育が行われた。また，韓国，アメリカ，ドイツの青少年を対象とした平和教育キャンプや，接境地域に住む住民との対話会も開催された。2016年12月には社団法人「平和の種」を設立し，国境線平和学校は「平和の種」の教育事業として運営されている。その平和運動における功績が認められ，2023年には Global Peace and Humanitarian Awards を受賞した。現在，代表であるチョン・ジソク博士のほかに事務局長や研究員が在籍し，韓国の市民運動の多様な分野で活動する人々が教授陣として参加している。また，海外の著名な学者たちが招聘教授として加わっている。

4 国境線平和学校，<http://www.borderpeaceschool.or.kr/main#>（2025年1月5日）

(1) 学校概要⁵

- ①開 校：2013年3月1日，鉄原（DMZ 平和文化広場）
- ②法的地位：2016年12月1日，統一部許可－社団法人「平和の種」
- ③教育目標：南北韓の平和統一実現のための人材（Korean Peacemakers）の育成

(2) 主なプログラム

- ①ピースメーカー育成：一般課程（1年修了証書），専門課程（3年市民平和学位 Diploma）
- ②青少年（学生参加型）平和統一体験
- ③国際青少年平和教育キャンプ
（IYPEC: International Youth Peace Education Camp）
- ④DMZ 平和巡礼運動
- ⑤DMZ 平和巡礼者（DMZ Peace Pilgrim）養成
- ⑥教師のための平和（統一）教育研修
- ⑦DMZ 国際平和会議（DMZ International Peace Conference）

⁵ Ibid., <http://www.borderpeaceschool.or.kr/8a7c403e5c824bb690a46a085eb15a45#>（2025年1月5日）